

### 10月13日 菊池の松囃子(御松囃子御能) 菊池の伝統芸能、今年も奉納

650年以上続く「菊池の松囃子」(国指定無形民俗文化財)が菊池松囃子能場で行われました。昨年はコロナ禍により御能以外は披露できませんでしたが、今年は狂言や舞囃子なども含め、無事に奉納することができました。



御松囃子御能保存会により、御松囃子御能や狂言、仕舞、舞囃子、狂言小舞などが披露されました

### 10月17日 ホースショーインくまもと 友好都市・遠野市の引退馬が競技

菊池農業高校で「ホースショーインくまもと」が開催されました。友好都市の遠野市から県馬術連盟に貸与された引退馬1頭が引退競争馬限定競技に参加。引退馬は熊本地震から5年目ということで貸与されました。



障害を飛び越えていく引退馬のプリランテ。しっかりと調教された甲斐あって、現役さながらの軽やかさで、障害を飛び越えていました

### 10月28日 明治安田生命保険相互会社 市民の健康づくりに役立てて

明治安田生命保険相互会社が「私の地元応援募金」として、市に20万3千円を寄付しました。今回の寄付は、同社が全国各地で展開する「地元の元気プロジェクト」の一環で昨年に引き続き、実施されました。



日野研太熊本支社長(左)は寄付について「市民の皆さんの健康づくりに役立てほしい」と話しました。今後、有効に活用していきます

### 10月12日 中央図書館 子どもたちの未来のために

(株)八方建設(前川浩志代表取締役)が現金1千万円を市立図書館に寄付しました。同社は昨年、創業60周年を迎えたのを記念して、子どもの読書活動の推進に役立ててほしいと寄付をしたものです。



前川代表は「地域に育てていただいた会社。子どもの育成に役立ててほしい」と話しました

### 10月15日 菊池市青年団七城支部 幼稚園・保育園の園児が稲刈りに挑戦

菊池市青年団七城支部が、七城町の双羽幼稚園、清泉保育園、加茂川保育園の年長児約50人を招待し、6月の田植え体験に続き、稲刈り体験を実施。農業の楽しさや食への感謝を感じてもらいたいという思いで、毎年行っています。



稲の穂先を見て、「これがご飯になるの?」と不思議そうにする園児も。団員の加藤光さんは「良い思い出になればうれしい」と話しました

### 10月24日 菊池市ふるさと創生市民広場 SLOW DAY KIKUCHI vol.2

市民有志で結成している「きくち未来編集部」と市立図書館が主催。2回目の本イベントには約2,000人が来場しました。生演奏や本の読み聞かせなどもあり、会場を訪れた人は、本や音楽、飲食などを楽しみ、スローな一日を過ごしました。



きくち未来編集部の亀崎修一さんは「より磨きをかけて、また来年開催出来るように準備をしていきたいですね」と話しました

### 7月30日 県中体連の結果を報告 市内中学生が好成績。菊池南中学校女子剣道部は全国大会で優勝

今夏に行われた県中体連大会を含めた団体・個人合わせた9つの競技で、市内中学校が優秀な成績を収めました。コロナ禍により練習が制限された中、生徒たちは実力を発揮し、九州・全国大会へ進出しました。

また、菊池南中学校の女子剣道部は全国中学校剣道大会団体女子の部で優勝。主将の荒木真歩さん(3年生)は、「54年振りの優勝でうれしい。皆さんの力強い応援や支えのおかげ。感謝の気持ちでいっぱいです」と話しました。



【菊池南中学校】女子剣道部

【菊池南中学校】ソフトボール部

【菊池南中学校】新体操部



【菊池南中学校】水泳部



【菊池南中学校】陸上部



【七城中学校】ソフトテニス部



【七城中学校】バドミントン競技



【泗水中学校】空手部



【泗水中学校】柔道部

### 10月6日 東京2020オリンピック 市出身の近代五種強化コーチが訪問

東京五輪で近代五種競技の強化コーチを務めた茂藤里区出身の城竜也さんが市役所を訪問しました。城さんは日本近代五種協会ナショナルチームの協会コーチ、自衛隊体育学校のコーチを務め、選手の育成に尽力しています。



城さん(左)は「学校での講演活動を通し、近代五種をはじめとするスポーツの普及にも力を入れていきたい」と語りました

### 9月28日 日本赤十字社熊本県支部長感謝状 献血功労団体として市内2団体が表彰

(公社)菊池法人会および(株)熊本畜産流通センターに日本赤十字社熊本県支部長感謝状が授与されました。この感謝状は10年以上継続的に献血に協力、または献血推進活動に功労のあった団体に贈られるものです。



1\_ 菊池法人会の荒木善文部会長(左)と荒木寿男さん(右)は「コロナ禍で献血協力者が減少しているが、今後も貢献に努めたい」と話しました  
2\_ 熊本畜産流通センターの清田瑞穂代表取締役専務(左)は「これからも社内へ献血の普及を図りたい」と語りました